

## 家庭からその一步を

中 一

私がこの前病院に行ったとき、具合の悪そうなお年寄りの方と入口でちやうど一緒になりました。その方は靴を脱ぐのに時間がかかっていて、付き添いの女性に強い口調で注意を受け、腕を引っ張られていました。そのときのお年寄りの顔が、とても悲しそうで、また、連れられて歩いていく丸くなった背中がさびしそうに見えて、私は目が離せなくなり、後ろ姿をずっと目で追ってしまいました。

昨年、小学生の女の子が父親からの何年もの虐待の末、亡くなってしまおうという事件が大きく報道されました。その父親は常に威圧的な態度や暴力で女の子に接してきたそうです。「父親」という絶対的な立場で、従うしかなかった弱い立場の女の子の人権を無視して、力で抑えこんだのでしょう。毎日一緒に過ごす家族の間でそのようなことが起こっていたなんて、想像するだけで胸がしめつけられます。本来家庭とは、一番安心でき

る場所であるべきなのに、なぜこんなに悲しい出来事が起こってしまったのでしょうか。

きつと、この家族にも以前は皆で過ごした幸せな時間があったと思うのです。けれど、日常生活の中でふとしたことから暴言や暴力が少しずつ始まり、それが一つ、また一つと増えていき、いつしか当たり前となり、さらにエスカレートして今回の事件につながってしまったのかもしれない。そう考えると、もしかしたらこの事件に心を痛めた別の家族や私の家族にだって、その「一つ」がいずれ起きるかもしれないのです。私自身、家族といると、家族という甘えからか、つい感情的な言葉を使ってしまふときがあります。学校など家の外だったら、自分の感情にも自制心が働くのに、親だから、子供だから、という甘えから相手にかける言葉や態度に対して意識が薄くなってしまうのです。しかし、お互い長く時間を共有する家族だからこそ、言葉や態度は大切にしなければならぬのではないかと改めて思いました。

私は今回、自分なりに考え、家族で家族間での会話や態度について話し合う時間を作りました。

感情的になってしまったときの心の動き、言った側の気持ち、言われた側の気持ち。相手の気持ちを冷静に聞き、自分の気持ちを伝えることで、そのときの言葉や行動がどれ程相手に影響を与えてしまうかがよく分かり、今まで見えなかった部分が見えた気がしました。これからは目の前にいる相手を今まで以上に尊重し、接していかうと思いました。そして、自分自身の気持ちも尊重し、大切にしていこうと思いました。家族とのこの会話の中で私が得たことは、何かに気付くことができたときに、立ち止まれる自分でありたいと思えたことです。日々の生活の中でおかしいと感じていてもそのまま流されてしまったら何も変わることはない、負の連鎖も止まらないかもしれない。でも、気付いたら立ち止まり、その度に考えていく。そこから自分で何かを変えられるのではないかと思いました。

あ のとき、病院で会った付き添いの女性は、もしかしたら何か理由があつて、たまたま強い口調になつてしまったのかもしれない。でもそれが毎日続いてしまったら、相手は必ず傷付きます。弱い立場の人の人権は傷付けられてしまいます。

まずは、立ち止まり、自分の行動や言動を省み、一番身近な家族から「社会」を築いていけるよう努力していくのはどうでしょうか。

一番身近な家族という小さな社会を大事にできるようになつた私たちならば、一歩踏み出した外の世界の多くの人々の人権をより意識し、大切にできる人間になつていけるはずだと思うのです。